サマリー

2015 年以降を目指す LNG 開発動向（液化部門）

戦略・産業ユニット　主任研究員　橋本　裕

- 2009 年、太平洋・大西洋の、将来を見すえた LNG ビジネスには、極めて鮮明な対照が見られた。長期的マーケティングと液化設備の投資面についてである。つまり、太平洋地域には大きな進展が見られ、大西洋地域には不確実性が継続している。現時点で LNG 供給能力は拡大しているかもしれないが、大西洋地域で将来のプロジェクト進展は不明瞭な状況である。
- 2009 年は、2 件の液化プロジェクトに関して最終投資判断（FIDs）がなされた。豪州 Gorgon およびパプアニューギニア Papua New Guinea LNG （PNG LNG）プロジェクトである。その他にも、太平洋地域で計画されている LNG 数量に関して、マーケティング活動に大きな進展が見られている。
- マーケティング、投資活動の焦点は、既に 2015 年以降の期間へと移りつつある。
- 豪州が今、ホットになっている。西豪州のいくつかのプロジェクトに加え、東部クイーンズランド州 CBM-to-LNG プロジェクトが、限定されたマーケティングの時機的なウィンドウと、限定されたプロジェクト資源（労働力・エンジニアリング）をめぐって、競争している。
- 浮体LNG（FLNG）生産構想が勢いを得ているものの、現在までのところ、推進決定に至ったプロジェクトは 1 件もない。この分野では、LNGビジネスで確立された実績を持つ企業によるプロジェクトのみが、推進できることとなるのかもしれない。[1]
- 長期的、垂直方向の一環の流れができていることが、プロジェクト推進の鍵となる。
- 伝統的には LNG 供給地域とみなされていた地域が、LNG あるいはパイプラインガスの大きな消費の中心地となろうとしている。中東、東南アジアである。

（本稿は、長期の LNG プロジェクトの開発状況に焦点を置いている。なお、内容は 2010 年 4 月 20 日現在の情報に基づく。）

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp

---

[1]太平洋地域では、Shell による西豪州沖合 Prelude プロジェクト、Woodside・Shell・ConocoPhillips・大阪ガスによるティモール海 Sunrise プロジェクトが、FLNG 有力案件とみなされる。